

真言宗
御室派

薬園山長泉寺

〒700-0807

岡山市北区南方3丁目10番40号

TEL (086) 223-7450

FAX (086) 221-0302

振込 岡山 01250-6-6418

ホームページ www.chosenji.net

第 329 号



新型コロナウイルスに翻弄された一年もあと少し。当山では大晦日に除夜の鐘を突き、正月八日には新年の安寧を祈る大般若法会を行う運びである。

ところで年末年始、寺で除夜の鐘を突き、神社へ初詣に行く、という方はどれくらいいらっしゃるだろうか。今年はコロナ禍によって躊躇する人も多いかと思うが、例年の人出は相当である。

一方、寺と神社両方に行くのは、宗教的にあまり節操がないという批判も耳にする。確かに本堂前で二礼二拍手一札する参拝者を見ると、似たような気持ちになることがある。ここは神社じゃないよ、と。しかし、それってどうなのだろうか？

歴史をさかのぼってみると、

神と仏

ひ と も し

我が国では建国以来、千年以上にわたって神社と寺院は習合していた。それが明治の神仏分離令で別れてしまい、そのまま今日を迎えている。ところが別れたのは神社と寺院だけで、神と仏が別れたわけではない、というのが実情なのだろうと思う。

人々の心の中では、今でも神仏は習合している。正月文化もそうだが、家の中を見れば一目瞭然だ。神棚もあって、仏壇もある。これを習合と言わず何と言おう。

「神の国」でも「仏の国」でもない。「神の国」でもない。「神界」には稀有かもしれないが、恥ずべきことでもない。日本人らしく、堂々と神と仏を拝めば良い。そして、疫病を克服する、素晴らしい一年を迎えよう。(龍)

清々しい新年を迎え 一年の安寧を祈る

初薬師 大般若法会

令和3年 正月 8日 (金) 10時 於：長泉寺本堂

奉修「大般若波羅蜜多經転読法会」

檀信徒皆様には、ご体調が良いことを確認の上、マスク着用にてご参拝ください。

なお、新型コロナウイルスの流行を鑑み、余興、お接待等は差し控させていただきます。

祈願札のお申込みは当山ホームページより、または別紙ご記入の上、寺務所までお届け下さい



当山では、弘法大師の御縁日である毎月二十一日に、大師尊像を前に法会を行う「御影供」、並びに「写経会」を開催しており、毎年十一月は、通常の行事に加えて、樂陽廟の合同追悼法会「春秋祭」、また、戦没者精霊供養塔である「安らぎの塔」の前にて「平和祈願祭」を併修しております。

本年は、新型コロナウイルス感染症の影響も心配されましたが、参拝者皆様に事前の体調確

認と参拝時のマスク着用のご協力をいただき、お接待等を差し控えさせていただく形での縮小開催とさせていただきます。

また、本堂では「長泉寺文化祭」を開催し、「御室流華道教室」や「書の会」による作品のほか、先般中国洛陽市より栄誉市民賞を受賞された故・佐藤安南氏による絵画作品の奉納展示、さらには岡山市日展会長の小塩武氏、檀徒の犬飼征志氏の絵画作品などが展示されました。



「参拝のお土産には、この秋に境内で採れた銀杏を皆様にお持ち帰りいただいたのですが、この度「ひきこもり支援センターきづき（社会福祉法人岡山市手をつなぐ育成会）」様とコラボレーションし、要支援者の方々による地域貢献事業として一緒に「皮むき作業」を行いました。銀杏特有の臭いをみんなで我慢しながら、一生懸命、心を込めて準備した銀杏は、より一層美味いものになったのではないかと思います。

南方遺跡の謎

長泉寺 寺子屋文化講座

十一月四日に行われた「第三十一回寺子屋文化講座」は、講師に岡山市教育員会文化財課長の草原孝典先生をお招きし、「南方には何が埋まっているの？」発掘調査が語る歴史」というテーマで「南方遺跡」についてご講話をいただきました。

弥生時代中期の「南方遺跡」は、今から約二二〇〇年以上前に栄えたムラの跡で、東西一、二キロ、南北一キロにも及びます。住居跡や穴、ムラで使われた土器、石器、木器などが多数出土しておりますが、その調査によって当時の地形や人間生活



草原孝典先生

の様子など、様々なことがわかってきています。

草原先生は、実際に南方遺跡調査に携わっておられ、その写真や資料を基に大変詳しくお話し下さいました。

なお今回も、ソーシャルディスタンスの観点から、定員を通常の半分である二十五名に限定し、参加者皆様にはマスクを着用していただいた上での開催となりました。



一年回顧 龍門

令和二年という年は、とにかく新型コロナウイルス感染症に尽きる一年だった。

当山では、三月・九月の彼岸行、八月の盆行ともに、全檀家様宅において「玄関前での読経」とさせていただいたほか、五月の本尊大祭は参拝をお断りし、当山僧侶のみで奉修。七月の観音夏まつりも同様に行った。

日々の法務も然りで、年忌法事を延期するという方も少なくなく、実施される場合もごく少人数、会食なし、ということが



5月当山僧侶のみで行った「本尊大祭」



毎月8日、21日に行われる「写経会」

ほとんどだった。

その間、西国巡礼の途中だった杖心会をはじめ、合唱団ナーガ、御詠歌、寺子屋文化講座、将棋クラブなど、各種文化活動はほぼすべて休止、あるいは実施する場合も感染症対策を入念に行った上での縮小開催となった。唯一、毎月の縁日法会で行っている写経会のみ、マスク着用をお願いした上で継続することが出来た。

春に整備された新設駐車場は、当初多くの方にご利用いただけ

ると期待していたが、お寺に人が集まりにくい現状では、未だ活躍しているとは言えない。寂しい思いである。

一方で、六月に第十五期を迎えた総代会では、コロナ禍対応の審議のほか、境内墓地の整備、小規模の法要を行う新堂建設案など、重要審議が続いた。総代各位には平素よりのご奉仕に深謝申し上げたい。

個人的には、当山護持、日々の法務という任職として勤めのほか、令和の改元にあたって、鎮護国家萬民豊樂、並びに疫病収束を祈念する一代一度の「仁王講」という法会を、真言末徒の一人として発願し、この秋(次頁参照)に無事、奉修することが出来た。日本の歴史や先師の努力に触れ、学びを深めることができた。明るい未来につながればと切に願っている。



奉修 令和仁王講

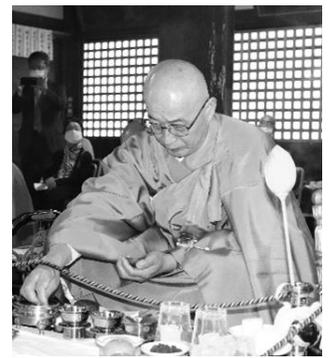


十一月十九日、令和仁王講岡山奉修会（事務局当山内）は、岡山市中区国富の古刹・瓶井山安住院様にて、令和の御代における一代一講の「仁王経読誦法会」を奉修。十四ヶ寺十六名の真言僧有志にて、開白、中間、結願の三座にわたって『仁王護国般若波羅蜜多経』（以下、仁王経）を誦し、鎮護国家、萬民豊樂を祈念しました。

我が国において『仁王経』を誦する法会（仁王会、または

仁王講）は、斉明天皇六年（六六〇）に「百座百講仁王会」として初めて行われ、以降歴代天皇がこれを設けてこられました。宗祖弘法大師も嵯峨、淳和両帝の御即位に際して、高雄山寺（現・神護寺）において同経を講じておられます。

醍醐天皇の延長四年（九二六）に編纂された『延喜式』には、「凡そ天皇の即位には仁王般若会を講説す、一代一講なり。」とあり、この頃には天皇即位儀礼の一環として定着。以来、応仁の頃に至るまで、天皇即位時には必ず「一代一講大仁王会」が修されており、神式の大嘗祭と並ぶ国家的儀礼として尊崇されてきました。また、天皇即位時



安住院住職 生駒琢一師

以外にも、天変地異や疫病流行等の国家的危機の際に「臨時仁王会」としても度々修されていきます。

同会はこの度、我が国に古代より伝わる天皇即位儀礼「仁王会」の意義に随うとともに、コロナ禍の早期収束を祈念するため、仁王経を新たに製本するなど準備を尽くして仁王講に臨み、晴れて無魔成満いたしました。

仁王講を行うにあたっては三十四の団体、企業、個人より御協賛をいただきました。施主皆様には心より厚く御礼申し上げます。次第です。

皆様にとつて、令和という御代が素晴らしい時代となりますよう心より祈念申し上げます。

御出仕各寺院

- 宮本光研（長泉寺）
- 生駒琢一（安住院）
- 新後雅弘（法萬寺）
- 稲谷祐慈（正通寺）
- 大橋聖本（大福寺）
- 佐伯隆快（長命寺）
- 守安秀行（西方寺）
- 有瀬光崇（安芸國分寺）
- 池内隆峰（南之坊）
- 荒城祥善（松林寺）
- 主原正道（佛法寺）
- 本山快範（吉祥院）
- 村上泰教（弘元寺）
- 宮本龍門（長泉寺）
- 生駒善勝（安住院）
- 幡山益聖（普門院）



天皇とは何か？

龍門

「天皇」とは何か？当然、簡単に言い表すことはできない。我が国の建国以来の歴史、時間、そこには無量の重みがある。

ふと、お隣の国を見てみる。

同じ国に住む人間同士が、大統領選挙によって対立し、国民の中の分断が深刻なほどに拡がっている。国のトップを選挙で決める「大統領制」は、一見すると民主主義に適っているように見える。しかし何事にも万能はないということだ。そもそも人間自体が完全な生き物ではない。

我が国のトップ、即ち「天皇」は、日本国憲法第一条で「日本の象徴であり、日本国民統合の象徴」とされる。神武天皇より今上天皇まで万世一系というだけがその理由ではない。国民同士がどんなに政治的に対立しても、「同じ日本人」という一点で一致できる価値を体現されて

いるからである。だからこそ、

「国民統合の象徴」であり、それは「国民の総意に基づく」のである。極端に言えば、たとえ憲法がなくても、日本人にとって天皇は天皇である。制度を越えた、宗教的存在と言って良い。

政治的対立というのは、むしろある方が良い。国が健全である証拠である。もし政治的対立がない国があるとすれば、それは独裁国家に他ならない。ただし民主主義が機能するためには、政治的な対立を人間の分断にまで悪化させない「何か」もまた必要である。現代の我が国において、天皇という存在がいかに大きいか、心致す次第である。

我が宗は、宗祖より脈々と天皇護持に努めてきた。総本山仁和寺はその筆頭にあたる。もちろん、他国と比べて日本の優位性を述べたいわけではない。ただひたすらに、先師先人の努力に頭が下がる思いである。

日本語と真言宗 名譽住職 光研

マンダラ私的新訳

あいうえお「五十

音図」からなる日本語。これは梵字——インド語の文法から成り立っています。

かつて文字が形成

される中で、漢字——

——中国語を「真名(まな)文字」とし、にほん語を「仮名(かな)文字」として両用するようになるわけですが、そこで梵字——インド語を「真言(まことば)」としたのは密教者だろうと思います。

ここでインドから伝わった「マンダラ」という言葉はどうか変化したでしょうか。中国語では曼荼羅と書き「輪円具足」と訳しました。まことに妙を得たものと言えます。ところが日本語では、未だに適訳がないのです。これは真言密教の根本にかわる大切なことです。

マンダラには両つ(たふた)の世界、胎

藏界と金剛界の別があります。

真言宗では、これが一つに仕合せったことを「金胎不二」といい、この世の理想とします。別の言い方をすると、からだどころが合一する。仕合わせる。

この「仕合せ」から日本語の「しあわせ」が始まったのではないかと考えます。

しあわせは漢字で「幸」と書きますが、この文字には別の意味も含まれます。

真言宗の「しあわせ」は両つのマンダラが一つになること。相異することが合一すること。

難しいかもしれませんが、密教の理想はここにあります。マンダラの日本語は「しあわせ」でいきましょう。私的新訳です。

梵字、漢字でできている日本語の中に、仏教の味わい深いおしえを見出していきましょう。

続

令和三年 年回忌表

一周忌	令和二年没
三回忌	平成三十一年没 令和元年没
七回忌	平成二十七年没
十三回忌	平成二十一年没
十七回忌	平成十七年没
二十三回忌	平成十一年没
二十五回忌	平成九年没
二十七回忌	平成七年没
三十三回忌	昭和六十四年没 平成元年没
五十回忌	昭和四十七年没

年忌法事は忘れないように気を付けてみましょう。
年忌にあたらぬ場合や、新型コロナウイルス感染症を鑑み御親族との法事を見送る場合などでも、当山よりお参りに行くことは可能です。
ご遠慮なくお問合せ下さい。

ゆく年 くる年

除夜の鐘

12月大晦日 23時45頃～

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み本堂での勤行は住職のみで行います
恒例のお接待も差し控えさせていただきます

とんど焼き

1月14日(木)

午前10時
於・境内

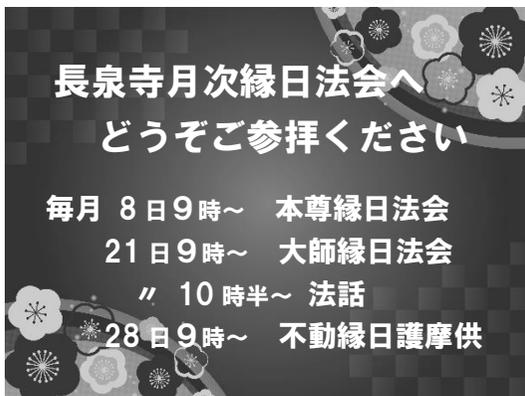
正月飾り 古御札 古御守
古塔婆 等をこ持参ください

※古人形など不可燃性のものは受け付けかねます

◆◆◆◆◆ 長泉寺文化教室 ◆◆◆◆◆

長泉寺合唱団ナーガ	練習日 月曜 10時
金剛流長泉寺御詠歌会	練習日 火曜 10時
御室流華道教室	毎月一回
長泉寺写経会	毎月8日、21日 9時
長泉寺書の会	毎月一回
長泉寺将棋クラブ	毎月一回
長泉寺寺子屋文化講座	隔月一回

◆◆◆◆◆ お気軽にお問い合わせください ◆◆◆◆◆



長泉寺月次縁日法会へ
どうぞご参拝ください

毎月 8日9時～ 本尊縁日法会
21日9時～ 大師縁日法会
" 10時半～ 法話
28日9時～ 不動縁日護摩供

お寺便り『いづみ』のペーパーレス化にご協力下さい

現在、長泉寺便り『いづみ』は、全檀家様に郵送等で配布させていただいておりますが、可能な御方には、環境保全の観点から、長泉寺より『いづみ』をダイレクトメールでお送りさせていただきたいと考えております。

ご対応いただけます檀徒様には、下記アドレスまでお名前とご住所を記載の上、メールをご送信下さい。お手数をおかけし恐縮ですが、よろしく願いたします。

送信メールアドレス : idumi@chosenji.net